

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870201294
法人名	医療法人かとう内科
事業所名	都市型グループホーム『ゆう』
所在地	愛媛県今治市立花町2丁目9-35
自己評価作成日	H22年10月20日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成22年11月5日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・母体が病院なので、いつでも相談や連絡ができ利用者が適切な受診や看護が受けられる。
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>母体病院の栄養士が立てた献立を参考にして、その日の食事担当の職員がメニューを決めておられる。野菜は事業所の畑で採れたものを使用されたり、農協スーパーで買出しするなど、旬の新鮮なものを採り入れるようにされている。食欲が低下している利用者には、食べたいものを聞いて、うどんやお寿司等「好きなものや食べたいもの」が食べられるよう支援されている。</p> <p>近くの公園まで散歩されたり、月に1度は、数名の利用者で図書館に出かけて、好きな本を借りて帰られる。季節の花を楽しみに、ドライブされることもある。</p> <p>昼食後、廊下で、職員と一緒に歩行器を使って歩行練習をされる利用者が見られた。各所に消毒液を置き、衛生面に気を付けておられ、床等の掃除もきれいにされていた。</p>
---

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい <b>3. 利用者の1/3くらい</b> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと <b>3. 家族の1/3くらいと</b> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある <b>2. 数日に1回程度ある</b> 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 <b>3. たまに</b> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が <b>2. 利用者の2/3くらいが</b> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	1. 大いに増えている <b>2. 少しずつ増えている</b> 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <b>3. 利用者の1/3くらいが</b> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目：11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが <b>3. 職員の1/3くらいが</b> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <b>3. 利用者の1/3くらいが</b> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <b>3. 利用者の1/3くらいが</b> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが <b>3. 家族等の1/3くらいが</b> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が <b>2. 利用者の2/3くらいが</b> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 都市型グループホーム『ゆう』

(ユニット名) 1F

記入者(管理者)

氏名 秦 珠美

評価完了日

H22年 10月 20日

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価)	
			実践につなげていけるよう努力している。	
			(外部評価)	
			前回の外部評価を受けて、地域密着型サービス事業所として、地域の中でどのようなことに取り組んでいくかということについて、職員と話し合いをされた。理念の通り、地域の方と接する時にも「話しやすく和やかな雰囲気作り」に努めることを話し合われた。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価)	
			地域の行事にはなるべく参加しているが日常的な地域交流ができていない。	
			(外部評価)	
			お天気のよい日は、近所を散歩することが日課になっている。散歩時には、声をかけてくださるご近所の方も増え、犬の散歩をしている方と会話したり、犬と触れ合ったりすることもある。近所の方が畑で採れた野菜を持って来てくださったり、事業所の畑で採れた野菜をおすそ分けすることもある。地域のフラダンスや手品のボランティアの方が来てくださっており、今後は、ボール体操を教えてくださいとボランティアの方にも来ていただく予定になっていた。地域で行われた敬老会には、2名の利用者が職員と出かけて行き、記念品をいただいた。	事業所近くから入居されている利用者のご家族から、事業所の印象等もお聞きして、管理者は「まだまだグループホームの特性を知っていただけていないのではないか」と感じ、地域の方にグループホームのことや事業所の取り組みをさらに知っていただき「誰でも入って来られるホームにしたい」と考えておられた。又、ミニ夏祭りやいも掘り等、地域の方達を事業所に招くような計画もあるようだ。さらに交流を深めてホームや利用者を知ってもらえるよう、取り組みをすすめていかれてほしい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価)	
			地域貢献がまだまだ出来ていないと思う。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価)	2ヶ月に1回の推進会議で地域の民生委員や自治会長などで出た意見を参考にサービスの向上に活かしている。	
			(外部評価)	利用者のご家族には、順番で会議に参加していただくようにされている。会議では、利用者の状況や行事、外出等の報告をされている。管理者は、運営推進会議を「自治会の様子を聞いたり、地域の方がどのようなことをしているのかを聞く機会」と捉えてすすめておられる。民生委員の方から地域の行事等を教えていただき、数名の利用者と地域の文化祭等に出かけられた。利用者は、「楽しく暮らしています」「食事が美味しいです」等、感想を話されるようだ。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価)	現在、中央包括センターの方と連絡をとりながら、施設の催し物にも参加していただけるように声かけをしている。	
			(外部評価)	市の担当者には、運営推進会議に参加していただき、災害時等いざという時に「近隣住民の協力の大切さ」について話していただいた。生活保護受給者の暮らしや病院受診等の希望について、相談しながら取り組まれている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価)	なるべく身体拘束しないケアに取り組んでいる。	
			(外部評価)	市の担当者より、運営推進会議時の話の中で「玄関のオートロックを解除したらいいのではないか」と意見をいただき、施設長を交えて話し合われたが、施設長の考えもあり「安全を重視」されて、解除はしないことになったようだ。オムツを使用されており、ご自分でオムツを外すこともある方についてご家族と相談し、夜間鍵付きのつなぎ服を着用する方がいる。職員がご本人の居室に訪ねる回数を増やして様子を見ながら、1度は、普通の寝巻きに戻してみられたが、オムツを外されており、再びつなぎ服を着用することになったようだ。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 9/21日県在宅介護研修センターの研修に職員1名が参加し、その後、資料を全員で回覧した。常に虐待のないように注意を払い、防止に努めている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 9/11日県在宅介護研修センターの研修に職員1名が参加し、その後、資料を全員で回覧した。現在は、活用されている人はいない。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所時に家族に重要事項説明書と契約書を渡し説明を行なっている。わからないことは随時、質問を受け、不安や疑問に対して、説明し理解・納得を図っている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営に反映できるよう努力している。	
			(外部評価) 年2回、行事の写真を多く載せた「『ゆう』だより」を発行し、ご家族に郵送されている。利用者の日頃の暮らしぶり等は、ご家族の来訪時に伝えるようにされている。県外に住むご家族には、毎月、ご本人の暮らしぶりを書いた手紙に行事時の写真を添えて送っておられる。身体面については、随時電話でお知らせしている。事業所で行う「忘年会」にはご家族も誘い、毎年半数ほどのご家族が利用者と一緒に食事をしながら、楽しい時間を過ごしておられる。	ご家族から、ご意見や要望が出されることは少なめである。事業所がさらに質の高いケアサービスが提供できるよう取り組んでおられる「運営推進会議」の内容や「外部評価」の結果を分かりやすく伝え、具体的な意見や要望を引き出すきっかけにされてはどうか。意見を出すことをためらうご家族の心情を察し、家族アンケートの集計表等も活用して家族の声を集めて、ケアサービスの質向上への取り組みにつなげていかれてほしい。

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			カンファレンス、話し合いにて決定したことを実現に向けて取り組み中である。	
			(外部評価)	
			日々のケアについては、朝の申し送り時等に話し合っておられる。月1回のカンファレンスには、法人病院の医師である施設長も参加されて行われている。利用者から「居室に西日が当たり暑い」と訴えがあり、冷房はお嫌いな方であり、職員で検討してすだれを設置することにされた。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			年2回の親睦会や忘年会など、職員の労をねぎらったり、個々に合ったスキルアップの為に研修の受講を勧めてもらおうなどして頂いている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			県在宅介護研修センターの講座を自主的に受講している。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			他のグループホームとの相互研修で、意見交換を行っている。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			本人の要望等に耳を傾けたり、本人が訴えれない人は家族より聴き本人の安心を確保できるように努めている。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) センター方式シート記入等、家族とともにいき、信頼関係に努めている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 同法人の病院や通所リハの職員、家族の意向を見極めながら初期対応している。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 出来ることはなるべく本人にして頂き、出来ない事はスタッフと一緒にするようにしている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 頻りに来所される家族には、普段の様子を話したり掲示してある掲示してある、写真をもてたりしている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 施設の近くに住んでいた方は散歩に出かけた時、馴染みの方等に会い挨拶したり、面会に来ていただいたりしている。 (外部評価) 以前から利用されている美容室に職員が同行して、利用を続けている方がいる。お若い頃の友人や近所の方が訪ねて来られ、居室でお茶を飲みながらお話を楽しまれる方もある。ご家族に手紙を書く方や週に1度外出や外食を楽しむ方もいる。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価)  レク(カルタ、塗り絵、ボウリング、歌、散歩)などを通してふれあい、会話のための機会を設けている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価)  病院に入院されている方は、時々顔を見に行ったり、家族の方と話をしたりしている。	
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価)  共同生活ではあるが、なるべく本人の意向に沿うように努力している。  (外部評価)  入居時にセンター方式を利用して、ご利用者ご本人の生活歴等をご家族に記入してもらっている。職員は「利用者の1日1日を大切にしたい」と話しておられた。又、利用者の言葉には、じっくりと耳を傾けるようにされており、利用者が「外に出たい」と言われるような時には、職員は、一緒に出るようにされている。	  入居後に職員が知り得た利用者個々の情報についても蓄積して、ご本人の思いや意向を深く探っていかれてほしい。又、ケアに困ったような場合にも、ご本人のことをさらに知るためのツールを工夫して、原因を探っていかれてほしい。介護計画に採り入れて実現に向けて取り組んでいかれてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価)  入所時に家族に聞いた情報と本人との会話などでこれまでの暮らしの把握に努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価)  一人ひとりの現状の把握に努め、個々の心身状態に応じて、休養や外出、余暇の過ごし方等を考えて過ごしている。	



## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎日のケアプラン実施表やモニタリングを参考に本人や家族の希望を聞きながら、現状に即した介護計画を作成している。	
			(外部評価) 計画は、利用者・ご家族の希望を聞いて、職員が意見を出し合い、ケアマネージャーが作成されて、半年ごとに見直しをされている。昼夜が逆転している利用者について「日中は人と関わり、戸外に連れ出す」こと等、医師である施設長からの助言も計画に反映されている。モニタリングは2ヶ月に1度、利用者個々の担当職員が行っておられる。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別の記録はもちろんのこと、朝夕の申し送りにて職員間で情報を共有している。	
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 臨機応変に対応できるように取り組んでいる。	
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 毎月、図書館に行き好きな書物を借りてきている。又、地域の行事にも参加できるものはしている。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 希望のかかりつけ医に受診、送迎している。かかりつ け医の無い方はかとう内科に受診する。	
			(外部評価) 利用者は、全員が母体病院にかかっておられ、往診や受診 を受けておられる。月2回、母体病院の認知症専門の医師 の診察を受けに行かれている。眼科等、他科受診は、ご家 族に付き添いをお願いされているが、ご都合に合わせて職 員が同行することもある。歯科は、訪問歯科を利用されてい る方もいる。皮膚疾患の処置のため、週2回、訪問看護サー ビスを利用されている方もいる。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 職場の看護職員に伝え、相談を行なっている。	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 母体が病院なので、情報の交換、相談、関係者との関 係づくりはできている。	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化した場合、本人や家族と話し合い、方針の共有 を図っている。	
			(外部評価) 入居時に、終末期の支援について事業所で「できること」を 話して、ご家族の意向をお聞きしている。ご家族は母体病院 が近いことで、とても「安心感」を持っておられるようだ。事業 所では、最期まで「口から食べる」ことを支援できるよう努めて おられ、ミキサー食やゼリー等で対応されている。ご本人が 点滴をする間、ご家族が見守ってくださったり、食事介助に 来てくださった。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価)	
			定期的には行なえていないが研修には各自行っている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価)	
			防火管理体制、避難経路などを至る所に張ると共に呼びかけ、対応できる準備を行なっている。順次地域との協力体制に備えていくよう努力中である。災害用品も1F, 2F共に準備している。	
			(外部評価)	避難訓練は年2回実施されている。2階からの避難については、非常階段がある場所まで訓練することになっている。事業所では、今年スプリンクラーを設置されおり、近隣の5軒のお宅に設置したことを報告して「何かあったらお願いします」と、いざという時の協力をお願いして回られた。
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価)	
			居室に入る時は本人に断って入るようにし、声かけにもプライバシーを損ねないように対応していきたい	
			(外部評価)	職員は、利用者に声かけする時、利用者の傍でゆっくりと話しかけておられる。調査訪問時、利用者の居室に入る際、職員は、利用者ひとりひとりに「 さ さん、お部屋を見せてくださいね」と声かけをして了解を得ておられた。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価)	
			日々の行事の中でも、一人ひとりに声掛けし嫌な場合は無理に参加させない様本人の自己決定を尊重している	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 午前中、ラジオ体操。午後、リハビリ体操。時々タオル体操。10時と3時におやつ。その他は自由に過ごしている。体操も強制ではない。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ヘアピンやマニキュア、時には化粧も本人の希望があれば手助けしている。その人らしい身だしなみを心掛けている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 野菜切り、皮むき、食器洗い、テーブルふき、お盆拭きなどできることは利用者さんにも手伝ってもらっている。 (外部評価) 母体病院の栄養士が立てた献立を参考にして、その日の食事担当の職員がメニューを決めておられる。野菜は事業所の畑で採れたものを使用されたり、農協スーパーで買出しするなど、旬の新鮮なものを採り入れるようにされている。食欲が低下している利用者には、食べたいものを聞いて、うどんやお寿司等「お好きなものや食べたいもの」が食べられるよう支援されている。	食事一連の作業を利用者とともにやり、一緒に食事を味わう等、おいしい食事をさらに楽しめるような支援について工夫できることはないか、話し合われてみてはどうだろうか。利用者個々の持てる力を生活の中でさらに活かせるような支援の工夫をすすめてみてはどうだろうか。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎回、食事量・水分量を記録し、一人ひとりの状態をチェックしている	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎回、口腔ケアできる方は声掛けし、出来ない方はスタッフが介助している。夜間、義歯はポリデント施行。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			自分でトイレに行けない方は排泄リスト表を作り個々に合わせてトイレ誘導をするなどの自立支援をおこなっている。	
			(外部評価)	
			夜間は紙パンツを使用されている方も、昼間は布パンツで過ごされ、トイレで排泄できるよう、職員は利用者個々の「排泄リスト表」で、利用者個々の排泄パターンを把握して、トイレ誘導されている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	
			牛乳、ヨーグルト、バナナ、野菜、寒天など食べ物に気をつけたり水分を多く摂取してもらうよう排泄リスト表で排泄の確認をし便秘予防に取り組んでいる。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			一応、一人ひとりに声かけをし、入浴したくない人には無理強いをしないようにしている。「今入りたくない」と言われる方には、後でもう一度こえかけしている。	
			(外部評価)	
			毎日午後からが入浴時間となっている。基本的には、2日に1度入浴するようになっているが、お風呂のお好きな方で毎日入浴される方もある。入浴を嫌がる方もいるが、声かけの仕方やタイミングを工夫して、3日に1度は入っていただくようにされている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	
			自由に居室に行き来し、休息を取りたい方はべっとに横になったり、ソファでくつろいだりしている。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬確認カードを作成し服薬の支援と症状の変化につとめている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日課のように新聞取りや洗濯物干しをして下さる方がいる。メンバーを替えながらドライブにもお誘いしている。後、レクレーションも積極的に実施している。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 散歩の声掛けは頻回にしている。普段行けないような場所にも年数回、ミニ旅行している。ドライブは数名ずつ出かけている。 (外部評価) 近くの公園まで散歩されたり、月に1度は、数名の利用者で図書館に出かけて、好きな本を借りて帰られる。季節の花を楽しみに、ドライブされることもある。10月には、ミニ旅行で「りんりんパーク」へ利用者全員で出かけられた。鯉にえさをやったり、庭園を散歩して楽しまれた。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの希望や能力に応じてお金を所持したり使えるように支援している。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話や手紙のやり取りは自由にできる。投函もできるだけ本人ができるよう支援している。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 天気や気温によってエアコンの使用や窓の開閉をこまめにしたり、廊下等、季節感のある花を折り紙で折り、たくさん飾っている。	
			(外部評価) ガラス張り窓から中庭の緑が見え、自然の光が差し込んでいた。壁には、行事時の写真をたくさん貼っておられた。利用者と職員と一緒に作った折り紙の作品や手作り小物等も飾られていた。昼食後、廊下で、職員と一緒に歩行器を使って歩行練習をされる利用者が見られた。各所に消毒液を置き、衛生面に気を付けておられ、床等の掃除もきれいにされていた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングの座席（椅子）に自分の馴染みの座布団を置き居心地よい空間を作っている。	
			(外部評価)	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室には昔の写真や好みの小物や飾りを置き、居心地よい空間をつくるよう工夫をしている。	
			(外部評価) 調査訪問時は秋晴れの日であり、窓に布団を干したり、網戸になっていた。電気カミソリを使ってご自分でひげを剃る方や、ベッドに座りテレビを見る利用者の様子が見えた。本や聖書を居室で読まれる方もいる。居室でもお茶が飲めるように、急須等にお茶を入れて用意されてあった。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 居室やトイレがわかりやすいように大きな字で貼り紙をして自分の部屋がわかるようにする等の工夫をしている。	
			(外部評価)	